

平成30年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

日上市 解説

組	番	氏名
---	---	----

番号	解 説	答
1	1905年(明治38年)に日立鉱山が開業し、鉱山から排出される煙は周辺の樹木・農作物を枯らしました。関右馬允(せきうまのじょう)は、23歳で入四間(いりしけん)地区被害民の代表としてその予防に取り組みました。このときの煙害問題解決にあたっての人々の「良心と情熱」は、新田次郎の小説『ある町の高い煙突』(1969年刊)にまとめられました。	2
2	福島第一原発の事故以降、野生のイノシシ肉は放射性物質が基準値を超えており、出荷が制限されています。このような状況の中、茨城県内においてはイノシシが急増しており、日上市においては市街地でイノシシを見かけるようになり、平成29年度は480頭が捕獲されました。そのため、農作物被害の軽減はもとより、市民の安全・安心を守るために、一年を通してイノシシの捕獲に取り組んでいます。	4
3	1833年(文政8年)、領内を巡っていた水戸藩主の徳川斉昭(とくがわなりあき)は、諏訪神社を詣(もう)でて、近くの鮎川(あゆかわ)の岸に梅を植栽(しょくさい)することを命じました。以来、たくさんの人々によって大切に守られ、現在は憩い(いこい)の場になっています。	2
4	中里地区では約1700本のリンゴの木があり、27種のリンゴが栽培されていますが、最も多く栽培されているのは「ふじ」です。また、日上市では中里地区の果樹園がある一帯を「日立中里フルーツ街道」と名付けて、リンゴやブドウ等の販売促進やPRを行い、活性化に取り組んでいます。	1
5	暇修館(かしゅうかん)は、150年以上前に水戸藩の郷校(ごうこう:庶民を教育するための学校)の1つとして建てられました。当初は、興芸館(こうげいかん)といい、村医者研修施設でしたが、1844年(弘化元年)に暇修館と改め、学びたいものに広く門戸を開きました。	3
6	古代信仰が続く神秘的な雰囲気漂う霊山。神仏を祀(まつ)る唯一の社として、他に見られない信仰をもちます。正月時期には、旧御本尊「大日如来」(だいにちによらい)を御開帳します。最近ではパワースポットとして人気があり、県外からも多くの観光客が訪れています。境内にある通称「御岩山(おいわやま)の三本杉」は県指定天然記念物であり、「森の巨人たち100選」にも選ばれています。昔、この三本杉の三叉(さんさ)の部分に天狗(てんぐ)が住んでいたとの伝説があり、別名「天狗杉」とも言われています。	4
7	日上市は、電気機械産業を中心とした工業都市です。戦後急成長し、代表的な企業城下町となりました。しかし、1990年代以降、景気の停滞、経済のグローバル化やアジア諸国の勃興(ぼっこう)などにより、大きな変容をせまられるようになっており、今後は個々の企業の競争力の向上、取引関係の多角化、地域の事業間の連携が求められると言われています。	2
8	終戦後まで、日立の海岸の各所では、塩を作っていました。灌水(がいすい、濃くした塩水)を保管するための岩に掘られた穴を灌水槽(がいすいそう)と言います。そこには、自然に真水がたまり、いつのまにかヒカリモが生育するようになりました。ヒカリモは黄金色(こがねいろ)に光ることから名づけられました。くわしいことはまだよく分かっていません。	3
9	長者山(ちょうじゃやま)遺跡からは、奈良時代の掘立柱の建物跡、平安時代の礎石立ち建物跡とそれらを外部と分ける大きな溝、さらに道路跡が見つかっています。道路は都と地方(陸奥の国の役所)を結ぶ重要なものです。	2
10	2009年(平成21年)に京都祇園祭の山鉾(やまぼこ)行事などとともに、日立風流物(ひたちふうりゅうもの)が、ユネスコ無形文化遺産として記載されました。また、2016年(平成28年)には国内33の祭り「山・鉾(ぼこ)・屋台行事」の一つとして、改めて記載されました。最近では、和紙や和食もユネスコ文化遺産になっています。	3
11	日上市南部の茂宮町(もみやちょう)に伝わる伝統風(でんとうだこ)「八つ風(やつだこ)」は、起源は定かではないが明治時代後期にはすでにあげられていました。八つ風の形は丸い輪が7つとハート型を組み合わせたもので、8つの輪で構成されているため、八つ風と呼ばれています。	1
12	池の底に水草などを集めて、鳥のように巣を作る魚で、湧水(ゆうすい)池などに生息し、体長は約8センチメートルのトゲウオの仲間です。この魚が生活するためには、きれいな水が必要です。イトヨは、別名トゲツチヨと呼ばれるように、体にとげのような、棘(きょく)を持っています。	4
13	市内では、川尻港、日高漁港、会瀬(おおせ)漁港、河原子(かわらご)港、水木漁港、久慈漁港の6箇所の港で漁業が行われています。	4
14	かつて鉱山鉄道は、精錬所であった大雄院(だいおういん)から新町、栄町、桐木田(きりきだ)、助川下町、新道を通り助川駅(現在のJR日上市駅)までを結んでおり、その沿線に商店街が形成されました。鹿島町にある銀座モール商店街もそのひとつです。2017年(平成29年)4月現在、日上市には19もの商店街(商店会)がありますが、これは水戸市について県内で2番目に多い商店街数です。	2
15	日上市天気相談所日上市役所観測所と気象庁の観測地点との平年値(1981年~2010年の30年平均)での比較。1はつくば、2は水戸、4は東京。日上市は東側に海が、西側に山があり、春から夏は北東の風が吹くことが多いため、湿った風が山にあたり、つくばや水戸にくらべて降水量が多く平年の降水量は1444.6ミリでした。	3
16	堅破(たつわれ)山は、標高658メートルの市内で一番高い山です。ブナ林は、豊かな森の象徴として知られています。茨城県内では、筑波山、八溝山でもブナ林が見られます。	1
17	日上市宮田町の山の中腹に立っている煙突は、完成当時155.7メートルで世界一高い煙突でした。大煙突は、1993年(平成5年)に約54メートルを残して倒壊してしまいましたが、今なお、日上市のシンボルとして親しまれています。	4
18	水木町出身の遠山喜一郎(とおよまきいちろう)は、1936年(昭和11年)のオリンピックに出場し、その後、日本体操協会副会長になり、日本に新体操を紹介し、広めることに力を尽くしました。遠山は、戦後のラジオ体操再改訂版(現在のラジオ体操)を一人で作り上げました。その体操は動きの「つなぎ」とリズムの「流れ」がすばらしく、1951年(昭和26年)からラジオ体操の放送が開始されました。	2
19	奥日立きららの里は、約48ヘクタールの園内に、キャンプ場やケビン、ふれあい牧場などがあり家族で楽しむことができる施設です。「わくわくスライダー」は、長さが1,188メートルあり、現在日本一の長さを誇っています。	3
20	日立鉱山の煙害対策からはじまった気象観測を、1952年(昭和27年)に日上市が引き継いで誕生しました。1953年(昭和28年)5月には気象庁から予報業務許可を取得し、天気予報を開始しています。	1
21	日上市は、県内で最長の約35キロメートルに及ぶ海岸線があり、快水浴場(かいすいよくじょう)も県内最多の6つの海水浴場があります。環境省が水質の良さなどを基準に選定する「快水浴場100選」に市内からは伊師浜(いしはま)、河原子(かわらご)、水木の3つの海水浴場が選ばれています。	2
22	秋田県にある小坂鉱山(こさかこうざん)の供給制度をもとに、日立鉱山の福利厚生施設として、1906年(明治39年)には本山(もとやま)供給所が設置されました。その後、供給所は市内各地に設置され、日上市の商業発展の基盤を支えてきました。	4
23	「ポポー」は、「森のカスタードクリーム」と言われるほど、甘く濃厚な味と香りが特徴の果物です。ポポーを「むらおこし事業」に取り入れ、1991年(平成3年)に「ポポーを活用した関連商品」の開発に着手し、1997年(平成9年)にはポポースイートワイン、1999年(平成11年)にはポポーアイスクリームの商品化に成功しました。	1
24	海に沿った階段状の段丘を海岸段丘(かいぎだん)といいます。日立の市街地の多くが乗る面はかつて海底であったところです。多賀地区で見ると、駅や多賀市民プラザのある台地、諏訪小学校や平和台団地のある台地、潮見台団地のある台地と3段以上の段丘があります。	3
25	1917年(大正6年)、日立鉱山が従業員の福利厚生施設として建てました。共楽館(きょうらくかん)では、映画、演芸、歌舞伎、音楽会などの他、小学校の学芸会なども行われました。1967年(昭和42年)に日上市に寄付され、武道館になりました。現在建物は、国登録有形文化財になっています。	4